

2/15
木造地区



スコップとスノーダンプで雪を片付ける木中生たち

地域の絆で冬を乗り切る 中学生が雪かきボランティア

木造中学生の生徒11人が、市社会福祉協議会の職員と一緒に木造地区で雪かきボランティアを行いました。

この日、生徒たちは2グループに分かれ、木造の芦沼、菊川、柴田地区の民家を訪問し、家の窓を覆う高さまで積もった雪や生活路をふさいだ雪をスコップとスノーダンプを使って一生懸命かきだしていました。

参加した3年生の浜山響さんは「大変だったけど、人の役に立てたことがうれしい。また機会があれば参加したい」と笑顔で話しました。

持続可能な文化観光をめざして

NPO法人つがる縄文の会（川嶋大史理事長）が「JOMON亀ヶ岡文化フォーラム2025」を開催。世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の普及活動を始め、歴史・文化を活用した観光振興やまちづくりなど、文化遺産のネットワークづくりに取り組んでいる北海道環境生活部文化・スポーツ局縄文世界遺産推進室特別研究員の阿部千春氏が講演しました。

阿部氏は持続可能な文化観光づくりにおいて「大事なことはこの地域にしかないローカルストーリーを作ることや、行政や観光・文化団体、建設団体などでビジネスコミュニティを作ること」と話しました。

フォーラムでは、このほか、木造高校2年の小林桜都さんと中島蒼乃香さんが「馬市革命～馬市まつりを更に盛り上げるためには」と題して発表を行い、市教育委員会学芸員が史跡の整備と活用に向けた市の取り組みを報告しました。



2/24
松の館

講演する阿部氏

石川県羽咋市の児童とリモート交流

2/27
瑞穂小学校



リモートでお互いを紹介しあう児童たち

つがる市立瑞穂小学校（山舘伸太郎校長）6年生30人と石川県羽咋市立瑞穂小学校の6年生25人がリモート形式で交流を行いました。

同じ校名が縁で、令和3年から毎年オンライン交流を行ってきた両校。この日、両校の6年生がリモートで互いの地域の紹介や学校活動の紹介をクイズ形式で行うなどして相互理解を深めました。

つがる市の児童たちは、羽咋市にある日本で唯一の車で走れる砂浜「千里浜（ちりはま）」があることを学び、羽咋市の児童たちは、つがる市の降雪量の多さに驚くなど盛り上がりを見せていました。

リモート交流を終えて、秋元望音さんは「この交流したことが記憶に残って、いつかまた会ったときに仲良くできたら」と感想を話しました。

伊藤鉱業が小学新1年生に防犯ブザーを寄贈

3/4
市役所

株式会社伊藤鉱業(佐々木互代表取締役社長)が新入学児童の登下校時の安全に役立ててほしいと、市に防犯ブザー145個を寄贈しました。同社は、地域貢献活動の一環として平成28年から市に防犯ブザーを寄贈しており、今年で10回目。防犯ブザーは市内全小学校の新1年生全員に贈られます。

この日、佐々木社長と神栄取締役営業部長が市役所を訪れ、倉光市長に目録を手渡しました。

佐々木社長は「節目の10回になりますが、もう一回り、二回りと節目を迎えられるように」と話しました。

倉光市長は「市でも子どもたちのために何ができるか考えながら皆さんと一緒に教育行政を進めていきたい」と述べました。



倉光市長に目録を手渡す佐々木互社長(中)と神栄取締役営業部長(右)

「スマホで、つがる。」 広告賞受賞

本市の魅力をユニークに体験してもらう動画「スマホで、つがる。」が、日本で最も歴史ある総合広告賞「広告電通賞」の銀賞をはじめ、3つの広告賞を受賞し、制作した「キャンパスラボ」の関係者が倉光市長に受賞の喜びを報告しました。

この動画は、各大学のミスキャンパスが主体的に取り組む社会課題解決チーム「キャンパスラボ」と木造高校の生徒が、本市の魅力を県内外の人に伝えるために制作。



報告に訪れたキャンパスラボ関係者の皆さん

この日、報告に訪れたキャンパスラボのメンバーである井上登美さんは「受賞がきっかけとなって、たくさんの人に広告を見てもらい、つがる市の魅力を体験して欲しい」と話しました。

倉光市長は「ネイティブな津軽弁が消えつつある中、この地域固有の言葉がまだ生きていることをたくさんの人に知ってもらい、この動画を通して関係人口増加に繋がれば」と話しました。

3/7
市役所

自慢の凧 大空に舞う

稲垣凧の会(横山勇一会長)主催の「第28回つがる市稲垣凧揚げ大会」が開催され、県内外の25団体約250人の愛好者たちが腕前を競い合いました。

競技は、凧の形や大きさでクラス分けして行われ、「凧揚げマナー・安定度・鳴り」の3項目を審査員が採点。

この日、晴天に恵まれたものの、積雪により足元が悪く、風もほとんど無い状況で、凧揚げには非常に難しいコンディションでしたが、参加者は持ち前の技術を発揮しながら、青空に自慢の凧を並べ、津軽凧特有の大きな音をうならせていました。

一般Aクラスで最優秀賞に輝いた三上さんは「風が弱く難しいコンディションの中、懸命に凧を引っ張り、高く舞い上がって最優秀賞を獲れてよかった」と話しました。結果は次のとおりです。(敬称略、最優秀賞のみ)

子どもの部: 工藤晃賢、一般A: 三上新太郎、一般B: 寺嶋年則、一般C: 阿保清蔵、団体の部: 本郷凧の会、創作の部: 白鳥徹



3/9
岩木川
河川公園

青空に凧を揚げる参加者